

令和4年度

南国市教育委員会事務局
事務事業自己点検シート

令和5年3月14日（火）

南国市教育委員会事務局
学校教育課
生涯学習課

21世紀を担う子どもたちの「生きる力」を育む保育・教育の推進

		○「六育」に共通する取組			
【取組】	全小中学校	【成果】		予算措置を絞り継続し取り組んでいることにより、南国市の課題（補助対象5項目）として、第2次南国市保幼小中連携学力向上推進プラン補助対象5項目であることの、各校との共有を図ることはできてきた。	方向性↑成 果 度
		【課題】	【実現】		
1 小中連携 学力向上プロジェクト事業 (アクションプラン)	南国市教育振興基本計画及び第2次南国市保幼小中連携学力向上推進プランの実現に向けて、補助対象項目を①国語科「読み取る力」「書く能力」②英語科③道徳科④防災教育⑤特別支援教育に絞った取組を進めている。なお、本年度令和4年度は次期学力向上推進プラン改訂に向けて、教科横断的な学び、汎用的な資質・能力の育成の視点も対象とする。	<南国市保幼小中連携学力向上推進プラン：目標> ①チーム学校として組織的な学力政策で、全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査及び標準学力答率の全教科において、同一集団（学年）の全国平均正答率に対する通過率が、前年度の各種調査より上昇する。 ②「C評定」等に該当する児童生徒が、令和元（平成31）年度各種調査より、令和4年度には減少する。 ③全国学力・学習状況調査で測る教科において、「授業がよくわかる」の項目で「当てはまる」の割合が、全国以上になる（児童・生徒問紙より）。また、全国学力・学習状況調査で測らない教科において、「授業がよくわかる」の割合が、小学校では50%以上。中学校では40%以上になる。	【後の取組】 学校経営計画にて、南国市保幼小中連携学力向上推進プラン【令和5年度～令和7年度】の目標に對して全校で設定がされているかを確認する。また、補助対象項目のうち一つ以上、各校取組を明文化するよう周知し、確認をする。そして、各校の意図的な取組の実施により南国市保幼小中連携学力向上推進プランの実現を図る。	南国市の課題としては共有化が図れていますが、学校は他の研究を受けていることもあります、事務局として南国市の課題を具現化するための取組をどの程度図れているのか、具体的な数値を持つての確認ができるなかつた。	●↑成 果 度
2 安心・安全な学校 プロジェクト事業 (アクションプラン)	小中連携で安心安全な学校づくりを推進するためには、より価値のある学習の提供や、いじめや不登校、児童虐待等の対策として、児童生徒に寄り添った教育が行われるように務める。また、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え育む体制づくりを目指す。	【取組】 安心・安全な学校 プロジェクト事業 (アクションプラン)	年度当初に南国市生徒指導担当者・生徒指導主事会を開催し、「いじめの定義や南国市独自で実施している「いじめ・いじめの疑い」の報告等について周知することができた。また、ゲートキーパー養成研修を本年度は冬季休業中に二日間開催することができ、南国市内へ異動されてこられた教員（91人）、保健センター、SSW等、関係機関にも声をかけ受講してもらうことができた。「SOSの出し方教育」については、令和2年度より全ての南国市立中学校で実施することになつており、本年度も取り組んでいます。今年度、新たに「いじめ宣言」ポスターを配布し、児童生徒一人人がいじめについて考えることができる取組を実施することができます。	方向性↑成 果 度	

<p>【課題】 いじめの定義の確認やそれに応じた今求められる対応について、校内研等で全教職員に周知しているが、教職員によつてまだ認識に差があり対応が遅れることがある。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>いじめ対応については、南国市生徒指導担当者・生徒指導主事会を継続することは勿論のこと、管理職研修会も開催していく。また、ゲートキーパー養成研修は夏季及び冬季休業中ともに2日間開催し、2回目の受講者も増やしていく等、更なる取組の充実を図る。「SOSの出し方教育」の取組については、小学校も含め南国市の取組として継続して取組んでいくために研修会を開催する。</p>	<p>【成果】</p> <p>Q-Uアンケートでは、学校満足群が1回目65%、2回目68%と3%の増加、学級不満足群が1回目12%、2回目10%と2%減少する結果となつた。各校で児童生徒理解のための分析検証を行い校内研修等、取組を行つてきた成果である。また、市教委が全学校訪問を夏季休業中の前半に行い学校との情報共有を行い、対策に生かすことができた。そして、本年度は不登校担当者改め魅力担当者が年4回一堂に会し、不登校の未然防止についての取組を話し合う機会を設けることができた。</p> <p>経年変化で1000人当たりの新規不登校者数を見ると、小学校では、令和3年度7月末現在で3.5人であったが、令和4年度7月末現在では2.6人となり、減少傾向にはある。</p>	<p>【課題】 各学校とも不登校の未然防止や初期対応、個別対応等をおこなつてはいるが、新型コロナウイルス感染症対策の余波等様々な要因がからみあい、不登校者数は小中学校ともに増加傾向にある。1000人当たりの新規不登校児童生徒数は、中学校20.0人以下との目標に対して令和3年度は24.3人であった。令和4年度は、新規不登校者数が中学校で令和4年度7月末現在は15.8人で令和3年度7月末10.7人を上回つており、新規不登校者数が増加する可能性がある。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>魅力ある学校づくり担当者会で協議した内容を各校で協議の機会が持つていう管轄等にも参加していただき等、演習への参加体制や協議内容を工夫していく。協議内容では保幼小・小中学校間の引継ぎを密に行うことを周知徹底させることともに、新規不登校発生を抑えていくように、未然防止に力を入れた魅力ある学校づくりを促していく。また、ICTを活用し、学校と家庭、学校と南国市教育支援センターふれあい、さらには、保健室等と教室をオンラインでつなぎ、少しずつでも学校や教室に居場所ができるような取組を各校進められるよう支援する。</p>
<p>不登校プラスワン 未然防止等事業 (アクションプラン)</p>	<p>3</p>	<p>— 2 —</p>

		成 果		
後免野田小、長岡小、久礼田小、園豊小、奈路小、自木谷小、鷺ヶ池中学校、香南中学校、香長中学校	【成績】 今年度は、当初予定していた香長中学校や予定はしていなかったが北陵中学校、大湊小学校の3校で学校運営協議会が設置され、継続した活動が行われた。設置された学校では、積極的に地域との連携を図る活動が行われた。また、令和5年度の全小中学校配置に向けて、設置されていない学校においてもCSディレクターを配置し、情報収集する等、各校の動きが活発となってきた。	↑ 成 果 度	● 方向性→	
【取組】 社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図るために、保護者や地域住民等が学校運営に参画する取組の一つであるコミュニティ・スクール（以下、CS）の体制整備を行う。そのためには、中学校ブロックや各校へCSディレクターを配置し、令和5年度までの全小中学校での学校運営協議会設置に向けて、地域と学校をつなぐ役割と設置に向けた準備ができる体制を整えた。また、管理職とCSディレクターが、地域とともに推進する学校についての共通理解を図ることができるように研修会を実施した。	【課題】 令和5年度までの学校運営協議会設置に向けて、地域と学校をつなぐ役割を担つていただくCSディレクターを引き続き全小中学校に配置する。また、学校運営協議会の設置方法について、南国市CS研修会を行い、学校とCSディレクターが共有できる場を設定していく。	↑ 成 果 度	● 方向性→	
コミュニティ・スクール 推進体制構築事業 (学校運営協議会)	【成績】 令和5年度全小中学校での学校運営協議会設置に向けて、地域と学校をつなぐ役割を担つていただくCSディレクターを引き続き全小中学校に配置する。また、学校運営協議会の設置方法について、南国市CS研修会を行い、学校とCSディレクターが共有できる場を設定していく。	↑ 成 果 度	● 方向性→	
十市小、後免野田小、長岡小、岡豊小	【成績】 教員が本来の教育活動に専念できるよう専門性を必要としない業務を代わって行う「校務支援員」を南国市立小中学校に配置することにより、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制整備など、教員の業務負担の軽減を図り、学校教育活動の充実につなげる。 く目標> ①チーム学校を実現し、学校全体の業務の効率化を図るために、令和3年2月までの時間外勤務時間を基本として、令和4年2月までの平均時間が5%削減している。 ②教諭等が子どもと向き合う時間や教科研修の時間を確保するために、6・10月の県教委作成の教職員意識アンケートより ○「子どもに向き合う時間が増えた」と感じる教員の割合 (1) 10月は6月より上昇している。 (2) 10月はさらに70%以上になっている。 ○「多忙感に繋がった。」と感じる教員の割合 (1) 10月は6月より上昇している。 (2) 10月はさうに70%以上になっている。	【課題】 緩やかなスタートを取り入れた学校でも業務時間内に時間をさくことがあまりできなかつた。令和4年度1学期の時間外勤務平均時間が、令和2年度2月までの時間外勤務平均時間と令和3年度1学期の時間外勤務平均時間と比べると、6校中4校上回つてしまつた。生徒指導上の諸課題対応が増加したことによる原因として考えられる。	↑ 成 果 度	● 方向性→
校務支援員配置事業	【成績】 今後も校務支援員配置校の教員の勤務時間を確認し、時間外勤務が多い教員に対しては働き方改革に対する意識づけを行っていく。また、コロナウイルス感染拡大防止のための消毒作業等で教員の児童生徒に向き合う時間を割いてしまわないように、大規模校だけでなく、教員数の少ない小規模校にも校務支援員が配置されるようにしていく。	↑ 成 果 度	● 方向性→	

		成 果							
		成 果	方 向 性						
6	就学援助費	<p>【取組】</p> <p>経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費の助成を行うことにより、すべての児童生徒に対し、就学援助費を均等に提供できている。</p> <p>【課題】</p> <p>令和5年度より端末を持ち帰つての学習を日常化していくにあたり、オンライン学習通信費についての支援が必要となつてくる。</p> <p>【今後の取組】</p> <p>オンライン学習費について、他市の状況を参考にしながら援助内容を検討する必要がある。</p>	<table border="1"> <tr> <td>成 果</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>成 果</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>方 向 性</td> <td>→</td> </tr> </table>	成 果	●	成 果	●	方 向 性	→
成 果	●								
成 果	●								
方 向 性	→								
7	○「智」の取組	<p>【取組】</p> <p>全小中学校</p> <p>義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することで南国市との教育課題を焦點化し、小中連携による組織的なPDCAサイクルによる「学び」の質の更なる向上を図る。</p> <p>【課題】</p> <p>全国学力・学習状況調査において、基礎的・基本的な【知識・技能】に課題がみられた。「書くこと」の力は着実に身に付いている。南国市の共通課題である「読む・読み取る（読み解）」「書くこと」に焦点化し、国語科を中心として南国市小中連携担当者会を開催して取組んでいる。その結果、全国学力・学習状況調査の国語科で「書くこと」の項目において小学校正答率50.9%（全国平均+2.4%）、中学校正答率47.9%（全国平均+1.4%）と全国平均を上回る正答率となった。</p> <p>【課題】</p> <p>全国学力・学習状況調査において、基礎的・基本的な【知識・技能】に課題がみられた。特に、算数や数学において無解答率が増えている。また、到達度把握調査においても、基礎力の定着には全国平均とほぼ同程度もしくは下回る結果となつており、一度、基礎・基本の定着を全ての教科において、見直していく必要があります。また、「授業がよくわかる」の肯定的評価（当てはまる・だいたい当てはまる）が、全国学力・学習状況調査で実施された全ての教科において、全国平均と同程度もしくは下回る結果となつた。</p> <p>【課題】</p> <p>チーム学校として組織的な学力対策で、同一集団（学年）の全国平均正答率を基準とした通過率の経年変化を意識し、全ての教科において「読む・読み取る（読み解）」「書くこと」に焦点をあてた継続的な取組が必要である。また、基礎・基本の定着や算数・数学科の授業改善が求めている。そのため、南国市の全児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証したものを、校長会や南国市小中連携担当者会等で各学校に情報提供していく、小中・小小連携を意識して取組むことで、各校の校内研修等での活用を促し、「学び」の質の更なる向上を図る。</p>	<table border="1"> <tr> <td>成 果</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>成 果</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>方 向 性</td> <td>→</td> </tr> </table>	成 果	●	成 果	●	方 向 性	→
成 果	●								
成 果	●								
方 向 性	→								

全小中学校		【成果】 ロイロの活用状況を示す数値は、6月の南国市の数値は658であったが、10月には1015に上昇し、11月は1233になった。また、各学校の活用状況を示す数値として10月の最大値は6791で、6月の2倍になるとともに、11月の最大値は8472に増加している。また、南国市の各校の取組として、11月より「南国市GIGA通信」を発行し、11月末で2号、グループウェアの掲示板で紹介できだ。中学校のプログラミング教育として、高知高専（岩崎教授とゼミ生）との連携を進めることができた。Pythonの、中学校技術指導員対象の講座の資料作りとともに、その資料をもとにし、まずは12月20日にICT支援員にゼミ生の模擬授業に参加していただいた。1月の校長会ではライフイズテック（株）による、大学入試を含めた小中高の接続と、新学習指導要領で追記となつた内容に対応について簡単に説明していく。それをして、次の段階として、1月17日に同講師による中学校技術教科指導教員への研修を行った。	↑成績度 ● 方向性→
8 授業改善事業 (アクションプラン)	<p>【取組】 授業支援ソフト（Classroomやロイロノート・スクール）のオンライン研修を年度当初に実施。特に昨年度活用が上がらなかつた小学校3校には受けさせていただく。</p> <p>学習ドリルソフトについて、5月16日南国市情報教育主任研修会にて、Benesseにより商品の説明を行つていただく。また、同研修会にて、中学校のプログラミング教育についても説明をしていただき、小学校と中学校、そして高等学校の一連のつながりも意識できるようにしていく。</p> <p>一人一台パソコンを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する</p>	<p>【課題】 ロイロの活用状況を示す数値がなかなか上昇しない学校は決まってきており、それは大篠小・長岡小・岡豊小である。昨年度より管理職には話をってきていているが、さらに学校の取組の方針やスケジュール、また困りごとはないか等を聞き取りをし、支援もしていく。</p> <p>【今後の取組】 ロイロの活用状況を示す数値がななか上昇しない3校は、年度初めには必ずロイロノート・スクールの研修を行つていただくよう、ロイロノート担当者とも連携を図り、早期に研修日を設定していく。「南国市GIGA通信」では、次に「複式授業での取組」を記事にする予定である。</p> <p>【成果】 放課後等学習支援員を継続して配置できるよう時間数を配当したこと、各校での個別指導に対する体制づくりを支援することができた。各校での放課後等学習を図り、多くの児童生徒が参加できる場を設定することができた。</p> <p>【課題】 昨年の実績をもとに、各校へ時間数を配当しているが、外部の学習支援員を確保することが難しい学校や時期がある。特に、中学校は入試対策に向けて、学習支援事業開始の時期が10月より開始したり増員したりするところがあり、学生に依頼することも多い。そのため、時期によつては人材確保をすることが難しいこともある。</p>	
9 放課後等学習支援事業			

○「徳」の取組	管内保幼小中学校	<p>【取組】 要保護・要支援の児童生徒（特に不登校等長期欠席児童生徒）及びその心配が懸念される児童生徒に対して、社会福祉等の専門的な知識・技能を用いて環境への働きかけを行い、改善を図るとともに、学校内における校内支援委員会等チーム体制への支援及び関係機関との効果的・機能的な連携方法についての実践を展開する。</p> <p>10 スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業</p>	<p>【課題】 校内支援会の時間設定等の調整に困難さがあり、SSWが全ての学校の全ての時間に入ることができなかった。また、SCとSSWの連携が円滑にできていないケースがあった。時間調整の工夫やSSWの役割について学校にも、今一度確認してもらう必要がある。</p> <p>【今後の取組】 SSWが保幼小・小中の連携において、保幼から小学校への情報共有、小学校から中学校への情報共有を図り、課題の検討や他の専門機関へのつなぎに向けた準備がスムーズに行えるように、南国市が開催する魅力担当者会、ふれあい連絡協議会、南国市まほろばの会（南国市勤務のSCによる定例会）へのSSWの参加を依頼し、各機関との連携をさらに密なものにしていく。</p>

○体の取組	鳴ヶ池中、香南中、北陵中	【成果】 概ねどの学校も、担当する教職員の部活動に関わる時間を大幅に減らすことができた。また、生徒もより専門的な技術指導に触れることができ、勝敗等の成績は勿論、生徒の個人の目標達成に関する意欲面についても向上してきた。	● ↑ 成果度 方向性→	
11	運動部活動配置活用事業	【取組】 南国市部活動ガイドラインの遵守とともに、担当する教職員の負担軽減を図りながら、生徒の自主性や協調性、責任感を育む等、運動部活動の一層の充実を図る。また、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制整備に努める。	● ↑ 成果度 方向性→	
○「食」の取組	たちばな幼稚園、金中小学校	【成果】 令和3年度から3名のアドバイザーを委嘱しており、令和4年10月18日に令和4年度第1回の会議を開催した。令和3年度における南国市学校給食の取組や食材費高騰への対応状況について説明し、各委員から意見をいただいた。また、令和4年6月に国より「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」があつたことから、南国市として令和5年度から令和7年度までの3年間をめどに、総合型地域スポーツクラブまほろばと連携して、運動部活動を各学校の実態に合わせて、段階的に地域移行していく。	● ↑ 成果度 方向性→	
12	南国市学校給食 アドバイザー事業	【取組】 令和3年度より給食費の御取管理が私会計から公会計に移行した。それにより、南国市の学校教育における食教育や学校給食をよりよく推進するため、新たに学識経験者による南国市学校給食アドバイザー会議を設置し、今後もアドバイザー会議を開催し、南国市の食育のこれからを考えいく。	● ↑ 成果度 方向性→	

○「才」の取組

大篠小学校・香長中学校		【成果】 自閉症・情緒障害特別支援学級の授業づくり支援事業に参加してもらうことで自閉症・情緒障害特別支援学級担任の「自立活動」においての指導力の向上を図ることでできた。また、3学期には、「合理的配慮コーディネーターの会(合の会)」を開催し、合理的配慮コーディネーターの役割や人材確保に向けた助言等をいだとき、次年度に向けた準備を行うことができた。						
13	【取組】 特別支援学級等 専門家活用事業 【合理的配慮 コーディネーター配置】	<p>【課題】 年度当初から、香長中学校区2校へ合理的配慮コーディネーターを配置することができない。また、「合理的配慮コーディネーターの会(合の会)」も1・2学期は開催することができなかつたため、「合理的配慮」のための校内体制整備を整えることが十分にできなかつた。各校での特別支援教育の充実に向けて、各校の取組の状況把握等、情報共有をしていくことが必要である。</p> <p>【今後の取組】 インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育を推進していくために、年度当初から配置できるように入員確保を優先し、今後も合理的配慮コーディネーターを配置する。コーディネーターの活用については、管理職とともに推進の意義や今後のスケジュール等を確認し、「自立活動」への指導・助言も行つてもらう。また、「合理的配慮」の事例を通常の学級にも広げていただけるような体制整備を考える。</p>	<table border="1" style="float: right; margin-top: -20px;"> <tr> <td>↑ 成果度</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>↑ 方向性</td> <td>→</td> </tr> </table>	↑ 成果度	●	↑ 方向性	→	
↑ 成果度	●							
↑ 方向性	→							
14	管内保幼小中学校 南国市美術展覧会開催事業	<p>【取組】 子どもたちの图画工作・美術活動への関心・意欲を高めるとともに、作品を通して豊かな情操の育成を図ることを趣旨とし、幼児・児童・生徒の部として一般の部と同時開催している。</p> <p>【展示】 ①絵画②お話の絵③版画④デザイン⑤便箋⑥毛筆⑦工作・工芸・立体作品⑧彫塑（幼児の部は⑤⑥を除く）</p> <p>【審査】 各分野で造詣が深い方々を審査員に迎え、児童生徒の作品を審査※幼児の部は本年度に無審査とした。</p> <p>【講評】 児童・生徒の部の入選・特選作品、幼児の部、あすなろコーナー（特別支援学級の児童生徒）</p> <p>【評議】 教職員の指導の参考となるよう、幼児の部を含めた審査員による講評のまとめを各校・幼稚園・保育所（園）に配布</p>	<p>【成果】 市内20校の児童生徒と、市外校に通う南国市在住の生徒から、8部門9,180点の出品があり、特選360点、入選3,167点であった。幼児の部は昨年より5施設少ない7施設から出品があり、6部門215点の全作品を展示了。あすなろコーナーでは出品113点のすべてを展示了。会期中の来場者は、一般の部と合わせて延べ4,171人であった。</p> <p>【今後の取組】 幼児の部については、教育課程との兼ね合いや幼児の負担軽減のため、市の複数の施設から出品されていない。コロナ禍における展覧会の向上を図ることができるよう取り組んでいく。幼児の部についても「展覧会を通じて小学生入学は、直近の感染状況を踏まえ柔軟な対応が必要である。また、事務局職員の業務負担が課題に挙げられる。</p>	<table border="1" style="float: right; margin-top: -20px;"> <tr> <td>↑ 成果度</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>↑ 方向性</td> <td>→</td> </tr> </table>	↑ 成果度	●	↑ 方向性	→
↑ 成果度	●							
↑ 方向性	→							

○「防」の取組

【成績】			
15	【取組】 南国市防災教育研修会を開催し、学校安全計画、危機管理ある香南中学校の取組を共有する等、実践的防災教育の普及や啓発活動を進めている。 ①地域や関係機関との連携防災実践委員会の開催（年間3回） ②防災意識アンケート実施（年間2回） ③効果的な避難訓練の実施（様々な場面や状況を想定して複数回実施【10回】） ④実践的防災教育推進事業の研究発表会 訪問（夏季休業中：事前学習含む）	【成果】 他の教科との関連を意識した学年ごとの学校防災教育計画の作成をして2年目にかかるが、計画的な実践を進めることに持つことである。また、拠点校である香南中学校の取組が高まつた。今年度より、中学生に防災士の資格を取得してもらう呼びかけもおこない、結果、香南中や鷲ヶ池中の生徒23名が防災士の資格を取得できた。 コロナ禍で、岩沼市への訪問はかなわなかつたが、岩沼市教訪問団を受け入れることができる、十市小学校と香南中学校の児童生徒は交流ができた。両市の防災教育の取組を共有することができた。	【課題】 地震や津波だけでなく、その他の自然災害とともに、防犯等の登下校の安心安全も含めて、各校の学校安全教育を推進する中で、保護者や地域・関係機関との連携の強化を図ることがまだ弱い。また、小学校と中学校や沿岸部、山間部、中心部の小学校（これまでに研究指定を受けたことがある学校）では防災学習に対しての取組に大きな差が生じている。
16	【取組】 わんわんパトロール事業	【成績】 各校の危機管理マニュアル（学校防災マニュアル）を保護者や地域・関係機関等へ学校が周知できるよう、中学校区ブロックの防災実践委員会を立ち上げる。次年度も研究指定を中学校とし、より広い地域で防災学習を推進する。また、防災士の資格取得も呼びかけ、地域に貢献できる生徒の育成に努める。	【今後の取組】 各地区に広げ子どもたちの安全確保の活動を広めるため、校長会で概要を説明した。今年度も各学校でポスターを掲示して頂いたり、学校便り等でご家庭にお知らせしていただいた。また、南国市の広報にも登録の呼びかけを掲載し、現在のところ17家庭（21匹）の登録がある。
		【取組】 子どもたちの安心・安全を見守るために、地域の力を借りた「ながら防犯」に取り組んでいただける方を募集している。さらに、防犯という観点だけでなく、本事業の可能性を探る。	【成績】 令和元年：3家庭、令和2年：5家庭、令和3年：6家庭の登録。

令和4年度新規及び上記事務事業計画表に入っていないものの

事業名	該当校等	取組予定	R4担当者
1 魅力ある学校づくり事業	【拠点校】鳴ヶ池中　【協力校】長岡小・後免野田小	高知県教育委員会より南国市が委託を受けて「魅力ある学校づくり事業」に取組む。「魅力ある児童生徒を対象として集団指導で行う「不登校児童生徒の未然防止」に特化した取組で、拠点校ブロックでの公開授業への参加と、取組の振り返りとして毎学期末ごとに意識調査を実施し、検証を行う。	池川 西
2 全国小学校英語実践研究事業	日章小学校	これまで県の課題であつた小中学校を見直し、改善していくことを目的として、「学習評価のあり方」の公開授業会を実施する。拠点校に公開授業に参加してもらう。	戸田
3 自閉症・情緒障害特別支援学級の授業づくり支援事業	大篠小学校	「校内支援体制や南国市内の自閉症・情緒障害特別支援学級担任が互いに学び合うネットワーク体制の構築及び特別支援学級担任の専門性の向上を図る」ことを目的として、「自立活動」の公開授業研究会を実施する。拠点校である大篠小学校と連携を図りながら市内小中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級担任に公開授業及び研究協議会に参加してもらう。	江村
4 学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業	全小中学校（希望者が正分校含む）	国の政策であり、南国市は英語が全く小中学校に。そして、2教科目として「算数・数学」を選択した学校（大湊小・鳴ヶ池中以外）と、「理科」を選択した学校（大湊小・鳴ヶ池中）に別れ、普段の授業等で学習者用デジタル教科書の成果と課題とともに、活用方法を探る。（令和4年度のみの実証事業）	江村
5 共同事務室における教員の働き方改革推進事業	市教委、学校事務支援室	令和4年度の主な取組は、「教諭等及び学校事務職員の標準的な職務の明確化」とともに、それに係る「学校管理規則」の改正である。南P定期総会での開示とともに、南国市教員衛生委員会及び校長会・教頭会との連携を図りながら行う。校務支援員配置事業及び運動部活動指導員配置事業とも連携する。	江村・高橋
6 ゆるやかな学期スタート研究指定校事業	北陵中プロック・香南中プロック・香長中学校	上記「5 共同事務室における教員の働き方改革推進事業」の中の取組として行うこととし、今年度は左記の中学校ブロック等で取り組み、検証を行う。	江村・高橋
7 授業づくり講座（国語）	北陵中学校	学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組み風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指すことを目的に、（教材研+授業研）を1セットとし、年間2セットを実施する。	西
8 不登校支援推進プロジェクト事業	香長中学校・教育支援センターふれあい	事業実施期間2年間の2年目となる取組。香長中学校では、校内適応指導教室が校内での安心できる居場所として機能し始める。また、教育支援センターを利用する児童生徒の割合も増えてきた。しかし、不登校出現率は令和3年度増加したことから、個別の指導計画や支援シートを活用した学校との交流等、不登校児童生徒の自立支援に向けた重層的な支援体制を強化していく。	池川
9 実践協働校事業	大篠小学校・香長中学校	2年目の取組となる。持続可能な事業改善体制の構築を目指して、「主体的・対話的で深い学び」を2校は拠点校として取組んできた。その資質・能力を育む授業づくりの過程を動画に収め発信する等、令和の高知型教育実践モデル校として普及に努めている。今年度は、「算数・数学」及び「理科」について小中が連携し、9年間を通して考え、单元づくり・授業づくりを研究していく。	池川
11 メンターチーム制を活用した実践研究事業	小学校8校（十市小・三和小・大篠小・日章小・後免野田小・長岡小・国府小・久礼田小）、中学校4校	・初任者をはじめとする若年教員の割合がこれまでになくなっている。新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインも効果的にが求められている。そのため、高知県教育センターにおける研修の機会以外に、各学校において日頃の業務を遂行しながら教員を育成することがこれまで以上に重要となっている。そこで、チーム内で学び合う仕組みについて研究する学校、小学校8校（十市小・三和小・大篠小・日章小・後免野田小・長岡小・国府小・久礼田小）、中学校4校に研修コーディネーターを配置し、日常的なOJTの活性化を図る。	池川
12 南国市人権教育研究会	全校	本年度は半日開催で計画ををしている。	戸田
13 山の学習支援事業	鳴ヶ池中	・南国市で唯一一学校林を所有している鳴ヶ池中学校がこの事業をうけている。総合的な活動の時間と位置付け、歴史ある学校林の活用を通して、森林環境の大切さを学ぶとともに、環境問題に対する意識の高揚をめざしている。また、地域・保護者の理解と協力を得ることとともに、地域とのつながりを深め、ともに伝統を引き継ぐ生徒を育成することを目的としている。各学年1回は山に行き、伐木等の整備作業をおこなっている。	池川

すべての世代の人々が「心豊かに学び続ける社会」を目指した生涯学習の推進

(1) 地域全体で学校教育を支援する体制づくりの推進		(2) 地域住民が主体的に学び楽しむ生涯学習の推進							
1	地域学校協働本部事業	<p>【取組】 地域が学校と連携して子どもの見守り、授業補助、放課後等の学習支援を行うことで、地域・家庭の教育力を向上させ、教員が子どもにも向う時間を見保することを目標としている。</p> <p>【成果】 授業補助、放課後等の学習支援を中心として実施し、地域と学校が協働して子どもとの健やかな成長を見守る体制を構築することに寄与した。</p> <p>【課題】 活動が活発化する一方で本部事業で執り行う予算額の不足が複数校から聞かれる。</p> <p>【今後の取組】 地域と学校が一体となって子どもに関わることができるようできる限りの支援をしていきたい。</p>	<table border="1" style="float: right; margin-top: -20px;"> <tr><td>↑</td><td>成 果 度</td></tr> <tr><td>●</td><td></td></tr> <tr><td>↔</td><td>方 向 性</td></tr> </table>	↑	成 果 度	●		↔	方 向 性
↑	成 果 度								
●									
↔	方 向 性								
2	高齢者教室事業	<p>【取組】 65歳以上の高齢者</p> <p>【成果】 令和4年度は、8教室で合計400名の学級生がいる。各教室において学級長・会計等の役職を置くことにより、一定自主運営ができ、市と連携をした活動ができる。移動教室等、高齢者にとって楽しみや生きがいとなっている。</p> <p>【課題】 新型コロナウィルス感染拡大により、申込学級生が減少している。</p> <p>【今後の取組】 多くの学級生に興味を持つてもらえるように、教室生からの意見を集め、新しい講師や講座内容を検討していく。</p>	<table border="1" style="float: right; margin-top: -20px;"> <tr><td>↑</td><td>成 果 度</td></tr> <tr><td>●</td><td></td></tr> <tr><td>↔</td><td>方 向 性</td></tr> </table>	↑	成 果 度	●		↔	方 向 性
↑	成 果 度								
●									
↔	方 向 性								

		20歳の対象者		②公民館活動の充実		
		【取組】	【成果】	【取組】	【成果】	
3	成人式	<p>新成人の新しいスタートを祝福し、社会人としての認識を高めることを目的にし、帰省者にも配慮し、1月3日に実施日を固定し式典を開催している。</p> <p>昨年度、コロナ禍のため2部構成とすることにより参加者の分散を図ったが、今年度はこれまでどおりの1部開催とした。</p>	<p>法改正により成人年齢が18歳に引き下げられたが、受験・就職と重なる等の理由から式典対象者はこれまで同様の20歳とした。</p> <p>また、成人代表者をはじめとした式典対象者から意見を伺った結果、式典名称についても変更せず「成人式」として開催した。</p> <p>当日は対象者309名の出席があり、3年ぶりに成人代表のメッセージを行い、また2階観客についても開放した。アトラクションについては休止した。</p>	<p>【課題】</p> <p>コロナ禍での開催が今後も続くと思われるため、式典内容について毎年検討していく必要がある。</p>	<p>【課題】</p> <p>人生の節目の大きな行事であるため、今後も続けていきたい。</p>	
4	公民館活動事業			<p>市全体</p> <p>【取組】</p> <p>南国市立17公民館（令和4年3月31日に中央公民館が閉館となり令和4年度は17地区公民館における事業となつた。）の事業支援や施設管理を行っている。</p> <p>公民館は、地域住民にとっての身近な生涯学習施設というだけでなく、「地域コミュニティの拠点」としてもその役割が期待されている。地区公民館では、三世代交流や文化祭、講演会や各種サークル等、それぞれの地域性が生かされた事業が行われている。</p> <p>公民館は、災害時の避難所に指定されており、「地域の防災拠点」としての役割も担っている。</p> <p>令和元年度より、建築年度が古い公民館から順番に非構造部材耐震化工事を行い、年度末の完成を目指している。</p>	<p>【課題】</p> <p>新型コロナウィルス感染症拡大により、中止となつた事業もあった。また、南国市地域交流センター2階の大築公民館と他の公民館で利用料の減免規則等の運用の違いが生じた。</p>	<p>【課題】</p> <p>感染対策を講じた上で開催方法や内容等の見直しをしながら事業を支援していく。公民館の規則の見直しも行っていく。</p>

(4) 魅力あふれる生涯スポーツの振興

① 生涯スポーツの推進									
7	<p>【取組】 第60回市民体育大会を開催。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、全16種目のうち4種目を延期、9種目を中止とした。</p> <p>市民体育大会</p>	<p>【成績】 7/17～11/3の間、7種目、延べ819名が参加した。</p> <p>【課題】 今年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により、一部種目を延期、またやむを得ず中止となつた。競技によっては小中学生が出場できる種目もあり、対策を講じつつ広報などを通じて今後も参加を広く呼びかけることにより、成長過程にある少年競技の競技力の向上と子供たちの意欲の向上につながるよう引き続き取り組んでいく。</p> <p>【今後の取組】 近年、生涯スポーツに対する市民の意識は高まっており、今後もスポーツの幅野を広げるために、スポーツ協会と協働し、今後も初心者でも気軽に参加できるスポーツフェア的な大会として展開していきたい。</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>↑</td><td>成 果 度</td><td>●</td></tr> <tr> <td>↑</td><td>方 向 性</td><td>→</td></tr> </table>	↑	成 果 度	●	↑	方 向 性	→
↑	成 果 度	●							
↑	方 向 性	→							
8	<p>【取組】 平成30年度から引き続き、第2期高知県スポーツ推進計画の施策の柱の1つであるスポーツ参加の拡大のための地域スポーツハブの取り組みを開始している。誰もが気軽にスポーツを楽しむことができるることを目的とした生涯スポーツの普及と振興のため、総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」を核として、スポーツや福祉関係団体等が連携し、スポーツに関する情報の一元化や提供などをを行うことにより、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。4年度についてもコロナ禍の中ではあるが県の対応ステージに応じた感染症対策を取りながらイベントを開催することとした。</p> <p>総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」は、南国市スポーツ協会や南国市スポーツ推進委員連絡協議会等の協力を得て、市民や地域に活動の輪を広げている。</p>	<p>【成績】 例年開催しているイベントとして、「さわやか健康ウォーキング大会」(毎年10月開催)について、2年ぶりに開催し、10チーム34名の参加があった。また、毎年2月開催の「スポーツフェスティバル」については3年ぶりに開催することができた。</p> <p>【課題】 「まほろばクラブ南国」会員数については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度から減少傾向にある。サークル数は50サークル、会員数は845名となっている。</p> <p>【今後の取組】 総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」に南国市スポーツ推進委員連絡協議会会长が理事として参加し、組織としてイベントに積極的に協力している。生涯スポーツのコーディネーターであるスポーツ推進委員は、総合型クラブにおいて中心的役割を占めており、今後も情報の共有化を図る事が大切である。</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>↑</td><td>成 果 度</td><td>●</td></tr> <tr> <td>↑</td><td>方 向 性</td><td>→</td></tr> </table>	↑	成 果 度	●	↑	方 向 性	→
↑	成 果 度	●							
↑	方 向 性	→							

				↑ 成 果 度		
9	スポーツ協会との連携による競技スポーツの振興と競技力の向上	市全体	【成果】 【取組】 ・高知県予選を経て全国大会に挑む団体（一般・少年）に対し、全国大会参加補助金を助成している。 ・例年開催の小学生駅伝競走大会（2月）を3年ぶりに開催。 ・その他、9月に市長杯小学生野球大会、11月に高知県柔道大会を開催。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	9月：市長杯小学生野球大会（7チーム190名）、11月：小学生駅伝競走大会（21チーム173名）、11月：高知県柔道大会（43チーム140名）、2月：南国市駅伝競走大会（12チーム105名）をコロナ対策等も行い、各連盟と連携して開催することができた。	● ↑ 成 果 度	方向性→
10	（5）地域における青少年健全育成活動 ①青少年の健全育成	市内全域	【成果】 【取組】 ・年間を通じて登下校の時間帯に合わせて青色回転灯パトロールカーで各校区を巡回し、児童生徒等への見守り、声かけを実施。 ・地域や学校等から喫煙や怠学等の連絡があれば、その都度関係機関と連絡を取り合い情報共有。 ・補導委員の確保。	児童生徒への青色回転灯パトロールカーの認識度は上がってきてている。 今後も巡回パトロールなど継続した活動を行うことで一層の補導活動・不審者対策へ繋げていく。	● ↑ 成 果 度	方向性→
11	補導活動	市内全域	【成果】 【取組】 ・青少年育成南国市民会議や南国市子ども会連合会の事業を通して、子どもの健全育成に資する活動の実施。	コロナウイルス感染症の影響で中止となる行事が多かったが、夏のカヌー教室やコロナ禍に合わせた形に変更した人形キャラバンを行なうなど一定の取り組みは行えた。	● ↑ 成 果 度	方向性→
	健全育成活動	市内全域	【成果】 【取組】 ・健全育成大会や人形キャラバン等	子ども会連合会の加盟小学校数の減少	↑ 成 果 度	方向性→
				【今後の取組】 子ども会連合会の加盟小学校数の減少は続いているものの、行事には多くの参加者が集まる中、参加者は一定寄与している。人形キャラバンについては、特に長く続いていることから活動を途切れさせることのないよう、活動の支援を行っていく。		

(6) 心を育む読書活動の推進、市民の求める情報提供

① 資料収集及び提供		市全体		【成果】 新型コロナの流行期にも開館を継続し、資料収集及び市民への情報提供を行った。また、新図書館整備に向けて県知事の事業認定がおり、用地買収・移転補償に着手した。		● ↑ 成果度 方向き→	
12	図書館活動	② 子ども読書活動の推進	市全体	【取組】 新型コロナウイルスの感染拡大があつても、市民の暮らしに役立つ資料収集や情報提供を行い、図書館の役割を果たすため、開館を継続した。社会情勢や利用者ニーズを踏まえて幅広い視点で資料収集を行い、市民への情報提供に努めた。	【課題】 現在の図書館はスペースや駐車場が狭く、より充実したサービス提供ができるよう、新図書館の整備が望まれる。	【今後の取組】 社会情勢や利用者ニーズに応じた資料収集を行い、市民への情報提供に努める。また、新図書館の整備を進める。	● ↑ 成果度 方向き→
13	子ども読書活動の推進	市全体	【取組】 「第3次南国市子ども読書活動推進計画」（令和2年度～令和6年度）に基づき、「子どもと本を結ぶ人づくり」、「本が身近にある環境づくり」という2つの基本方針に沿って、生涯学習課、学校教育課、子育て支援課、保健福祉センターにおいて取り組みを進めた。南国市子ども読書活動推進委員会を開催して計画の進捗管理を行った。	【課題】 学校図書館の資料の分類が、日本十進分類法に基づいておらず、国語教科書に基づく指導と相容れない状況となっており、ラベル貼替の作業を進める必要がある。	【今後の取組】 「第3次南国市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き関係各課における取り組みを進めていく。	● ↑ 成果度 方向き→	
14	① 地域財の豊かな市民文化の創造	市全体	【取組】 文化財審議委員会を開催し、将来にわたって残すべき文化財の指定を行っている。 市内の指定文化財を年2回パトロールして、保存状態などを確認している。 指定文化財を訪れた人が分かりやすいように説明看板を設置し、適宜補修をしている。	【課題】 文化財審議委員会を9月に行う予定だったが、新型コロナウィルス感染状況により中止となる。	【今後の取組】 市内の指定文化財をはじめとした各種文化財の保護・普及啓発のために継続して事業を行っていく。	● ↑ 成果度 方向き→	

課題番号	事業名	市全体	【成果】			↑ 成果度	●	
			成	果	度			
15	文化財講座の開催	市内遺跡発掘調査等事業	【取組】 歴史学講座： 市内の歴史に関する講座を開催し、最終回には各地区城跡・古戦場跡等、ゆかりの史跡を訪ねるフィールドワークを予定している。 郷土学講座： 文化財についての興味関心を育てるとともに、知識を得る場としてフィールドワークを予定している。	歴史学講座：新型コロナウイルス感染状況により中止となる。 【課題】 文化財への興味・関心を育むために、文化財講座の開催をしていく。	【今後の取組】 地域の文化財の最新の研究成果を広く市民に伝え、文化財への興味・関心を育むために継続して事業を行っていく。	↑ 成果度	● 方向性→	
16	市内遺跡発掘調査等事業	市全体	【取組】 各種開発行為から市内の遺跡を保護するために、情報収集、事業者との協議、試掘確認調査、工事立会などを実施している。 市内の重要遺跡の範囲や内容を確認し、保存と将来の史跡整備に向けての資料の蓄積を行っている。調査成果は現地説明会の開催や発掘調査報告書の作成、広報誌への掲載等により広く伝える手段を講じている。 岡豊城北籠にある長宗我部一族の寺跡では、将来の史跡追加指定のための学術調査を実施する。	区画整理事業や国営ほ場整備事業などの大型公共事業に加えて、民間開発事業に対応する本発掘調査を行い、若宮ノ東遺跡、成願寺跡、東屋敷遺跡などの成果から地域の成り立ちについて新たな知識を得ることができた。長宗我部一族の寺跡の学術調査では地形の変遷や場所ごとの性格の違いを具体的に知る資料を得ることができた。	【課題】 調査成果を広く公開するために、報告書作成のための整理作業を進めていく必要がある。	【今後の取組】 県内有数の遺跡密集地である市の遺跡の保護のための調査を継続していく、地域の歴史資源として活用していく。	↑ 成果度	● 方向性→
17	オナガドリ保護増殖事業	市全体	【取組】 ・国の補助事業を受け、種の保存と増殖に関わる研究や飼育者の負担を軽減するための飼料の配布事業を行っている。 ・パンフレットの配布や大篠オナガドリ保存会と協力して紹介などをを行い、啓発普及するとともに新たな飼育者の募集を行っている。 ・オナガドリの飼育と保存のための協力謝金を給付している。 ・最良種の作出に寄与するため、DNAの解析成果をもとにした人工授精を行う。 ・鳥インフルエンザ発生予防対策として、消石灰・消毒液の配布を行い、家畜保健衛生所と連携を取りながら、注意喚起を行っている。	最良種の作出に寄与するため、DNAの解析成果をもとにした人工授精を行った。	【課題】 新たな飼育者の募集を行なっていく。	【今後の取組】 特別天然記念物であるオナガドリの保護・増殖のために継続して事業を行なっていく。	↑ 成果度	● 方向性→

②市民文化の振興		市全体		【成果】文化講座は、例年250名の市民が受講している。		↑ 成果度		●	
				【課題】マンネリ化したり他課で実施する事業の講座とほとんど同じ内容のものもあり、精査が必要である。		↑ 成果度		●	
				【今後の取組】教養講座は市と学校が協定を結んでいることもあり、学校連携事業として今後も実施を続けていきたい。文化講座は、南国市地域交流センターを利活用してできることを開催していきたい。		↑ 成果度		●	
18	文化講座開催事業	【取組】年間を通じ、文化講座（25講座）として「NPO法人まほろばクラブ南国」に事業委託をしている。また、高校・大学等との連携事業として、高知高専と共に教養講座を実施した。	市全体	【成果】令和4年4月より利用を開始し、10～12月の利用者数平均／月は2,756名で年度当初より利用者数は継続して増加している。駐車場を含む外構工事は年度末の完成を目指して行っている。	【課題】駐車場が未整備であること、舞台専門の業者委託がまだあること等から制限が多く、特にホールの利用率を上げることが難しかった。	↑ 成果度	●	↑ 成果度	●
19	地域交流センター運営事業	【取組】500席のホールを持つ文化施設が竣工したため、令和4年4月から施設の貸出を開始した。年度内完成を目指し敷地内駐車場整備等を進めべく外構工事を行った。	市全体	【成果】施設全体が完成し正式に開館した後には、市民の文化振興を目的とする自主事業を実施していく。	【課題】駐車場が未整備であること、舞台専門の業者委託がまだあること等から制限が多く、特にホールの利用率を上げることが難しかった。	↑ 成果度	●	↑ 成果度	●
20	③芸術文化の振興	【取組】第62回南国市美術展覧会を令和4年12月4日から12月11日に開催した。一般の部と幼児・児童・生徒の部の同時開催で実施している。	市全体	【成果】一般的の部は展示総数198点で、特選6点、褒状11点、優秀賞16点であり、会期中の入場者数は全体で4,171人であった。県内でも珍しい大人と子どもとの同時開催により、子どもの頃から様々な文化に触れるいい機会となった。	【課題】部門によっては出品数が減少していることや、今後の継続・発展の為にも若い世代の出品が必要である。また、事務局職員の負担が大きいことも課題である。	↑ 成果度	●	↑ 成果度	●
		美術展覧会開催		【今後の取組】高校や実行委員の開いている教室などで若い世代にも出品を促してもらう。また、開催場所としての南国市地域交流センターの利活用や業務委託など、開催の方法について、今後検討していく。					